
C | O | N | T | E | N | T | S |

- 【1】書籍のご案内
- 【2】職場を考える(34)
- 【3】生き生き施設づくり(26)
- 【4】信頼のある職場(34)
- 【5】少年硬式野球チームのコーチと目標管理(44)
- 【6】寝たきり老人になるメカニズム
- 【7】ミクロコスモスⅡ

平素はお世話になりありがとうございます。
当センターで2カ月に1回のペースで発行するメールマガジンをお送りします。
すごいことが書いてあるわけでもなく、無事をお知らせする程度のメールマガジンです。
気楽にご笑覧いただき、今後とものご厚誼をいただければ幸いです。

中嶋哲夫

【1】書籍のご案内

当センター代表 中嶋哲夫が新しい本を出版しました。「奇跡の企業組合 生業(なりわい)の里」(博進堂刊、定価税別900円)。新潟県山北地区で、シナ織りを中心に山里の生活体験ができる場所を設営し営業してこられた「生業の里」の記録です。事業が成功するはずがない場所で、還暦を過ぎたお母さんたちが15年も活動してこられた貴重な取り組みの紹介です。お読みいただけるとうれしいです。博進堂オンラインストアで入手できます。

http://www.hakushindo.jp/store/products/list.php?transactionid=824b204559c03845d0eb4a11c4a702a58480bca4&mode=search&category_id=&name=%E4%B8%AD%E5%B6%8B%E5%93%B2%E5%A4%AB&search.x=56&search.y=18

【2】職場を考える(34)

【 職場の入会的性質 】

入会権。それを身近な存在と感じる人は、もはや少なくなっただけだと思います。ただし、第二次大戦頃までは、日本では一般的に見られた慣習です。他の人が所有する山林で、村人が山菜やキノコを収穫したり、炭を焼いたりする慣習です。漁村では、地先の水面で村人が漁を自由に行き来するという慣習。日本だけに見られる慣習ではなく、アルプスの牧草地での放牧などにも入会の慣習があると聞いています。

入会の特徴は、地盤の所有者と利用者が異なっていることです。たとえば、筆者が山の所有者であるとする、皆さんがその山に出入りし、肥料用の草を刈ったり、

ウサギを捕まえたりして利用できるわけですが（拙宅の近所には、6つの村が入会できることが示された六個山という山があったりします）。

翻って職場を考えると、職場にある資産の所有者は会社。ただし、その会社の社員であることにより、会社の資産を自由に使うことができる。そして生産活動を行うことができる。その生産物は、会社の製品になるので個人利用はできませんが、研究者などは、それを個人の生産物として学会発表することもできる。そう考えることもできます。個人の側から職場をとらえると、生産活動のインフラを提供するのが職場であり、それを維持するためのハードの所有者は企業。そのインフラをうまく活用するためのソフトの構築は、「村人」である社員。そんな関係でとらえることができます。

中嶋

【3】生き生き施設づくり(26)

【 地域の信用 】

今後ますます増大する介護ニーズ対策として地方自治体の所有地払下げがあります。

都市部でも子どもが減って統廃合などで使われなくなった小学校や中学校の用地があります。その学校跡地に介護施設を建ててサービスを提供するという施策です。自治体が行うのは跡地の払下げまでで、実際に施設を建てて運営するのは民間の介護事業者です。自治体の公募に手を挙げた事業者の中から、審査を行って一番優秀だった事業者には払下げの優先権が与えられ、その事業者が施設開所に向けて動き始めます。

気になるのはその審査基準です。自治体によって違いはありますが、介護事業の実績、規模、財務力、サービスの質、スタッフの質向上の取り組みなどが主だったところではあります。

いつも通う介護施設が、ある自治体の公募で優先権を獲得することができました。理事長に何が決め手になったのかと聞くと意外にも、地域とうまくやってきたことが認められたのではないかと、という返事でした。なるほど、自治体が行う事業ですから近隣とトラブルを起こすような事業者は論外です。

この施設が心掛けていることは、まず開所に向けては段階ごとに近隣の住民に向けていねいな説明会をくりかえすことです。またオープンしたあとは、地域のさまざまな組織とお互いさまの関係を急がずじっくりと作っていくことです。町内会なら、清掃や防災訓練などに参加する、納涼祭などの施設イベントに町内の方をお招きすることから。地元のサークル、たとえば音楽のサークルなら、施設内にメンバーが集まって練習できる場所を開放し、そのうち施設にきてボランティアの演奏会を行ってもらおう。幼稚園や小学校なら、施設を訪問してお年寄りと交流してもらったり、また夏休みなどで学童保育が使えない時は勉強スペースを施設内に設けたり、といった具合です。

都市部の地価は依然高価格です。払下げで購入した土地代を回収してゆくには長い時間がかかります。地域とも長い付き合いになります。施設の利害関係者のうちで、利用者は変わっていくしスタッフも変わっていきます。短期に変わらない「地域」からの信用は、大きな無形の資産だと感じました。

パートナー・三宅敬司

【4】信頼のある職場(34)

【 評価の範囲 】

“人事評価は、評価対象期間の行動で評価します。去年が悪かったから今年も厳しめに評価しようというのは反則です。その逆も然りです。”

人事評価のテキストやマニュアルには【評価の対象となる範囲】の項でこのような記述をよく見ます。過去の記憶から生じる先入観を排除し、事実にもとづいて評価するという大事な原則だと思えます。

ただ、こんな状況だと、少々ひっかかる面がないでしょうか。たとえば、今年、画期的な新商品がヒットした。担当した人たちの評価は当然に高い。ただ、その大ヒットの種をまいたのは一昨年までこのチームにいた某氏である。種をまいた当時はこれが成果に結びつくのかが判然としなかったので某氏の高い評価は見送られた。今某氏は厳しい状況に置かれた別の部署の立て直しのために異動になり、再建の糸口を見いだせず苦勞している。また飛躍しますが、こんなケース。経営危機におちいった企業の経営者がその責任を問われているが、失敗の本質は今の経営陣ではなく実は二代前の経営陣にあった。

さかのぼって過去を見ることも、ときに必要ではないかと思えます。人事評価制度として行くと、評価範囲の原則から逸脱し弊害が生じる懸念があるので、運用が難しいかもしれません。別システム、たとえば顕彰や賞罰だとどうでしょうか。

ずっと前の若いころの研究成果を認めたノーベル医学生理学賞の報道に接したり、総無責任体制を改めるべく過去にさかのぼって担当者の過失責任を問わんとする新しい都知事の発言を見聞したりして、思ったことです。

パートナー・三宅敬司

【5】少年硬式野球チームのコーチと目標管理(44)

【 ルールの変更、環境の変化 】

前回のメルマガに記載したとおり、我がリーグは小学生の硬式野球チーム日本一を決める、「アンダーアーマーカップ」への出場権を獲得し、福島県にて行われた大会に臨みました。

小学生の硬式野球とは言っても、各団体（リトルリーグ、ボーイズリーグ、ヤングリーグ、ポニーブロンコ、フレッシュリーグ）のルールは微妙に違い、今大会のみの特別ルールで行われました。

我がチームが、一番苦勞したのは「変化球が使えない！」こと。

リトルリーグでは変化球が、当然のことながら使用されるため、投手は変化球と直球とで「緩急の差」を使い、打者を打ち取ることができるのです。しかしながら今大会では、もし、変化球を投げてしまうと、判定『ボール』となり、相手がヒットであれば、そのまま進められるが、もし打ち取ったとしても『ボール』となってしまいます。

事前に、統一ルールについては聞いてはいたものの、どのように子ども達が対応するのが不安（打ち取ることができずに、苦しむのでは？）でもあり、楽しみで

もありました。

結果として、子ども達は山なりの「超スローボール」や、普段のストレートよりも軽く投げる「スローボール」を楽しそうに投げて、無難に戦っておりました。逆に、打者としては普段は直球と変化球のどちらが来るのか判らない中で打席に立っておりますが、今回は緩急はあるものの、鋭く変化するボールはないとの安心感から、積極的にストライクゾーンの球は打ちに行くという姿勢で臨むことができたので、好循環。皆、思いっきりバットを振りぬいておりました。

準決勝で敗れはしましたが、最高学年の6年生がほとんどで構成される他チームに対して、我がチームは5年生も主力に連ねており、結果は満足のいくものでした。

何よりも環境変化やルール変更に対応する子ども達を眺めながら、頼もしくも感じましたし、何かを教えてもらったような・・・

環境変化の激しい時代、世の中のルールが突然変わることもあります。事業活動においても変化は突然やってきます。

そんな中、皆様の目標管理上には創意工夫を楽しみ、柔軟に対応するような項目はありますか？

イケメンコーチ

【6】寝たきり老人になるメカニズム

今年は2002年以来、健康面で最悪の年でした。4月に胆石の手術をし、肝がんが見つかって手術。肝機能がなかなか回復せず、低カロリーの食事療法を続けたため体重が激減、おまけに今年の夏は暑かったのでエアコンの効いた部屋でゴロゴロしているうちに益々気力が無くなってしまいました。私は現在74歳、4月までは至極健康で、2~3カ月に一度の中国出張をこなし、中国関連セミナーの講師を適度に忙しく引き受けていました。それが4月から10月まで入退院を繰り返すうちに瞬く間に無気力老人になってしまいました。

9月のある日、病院のベッドで大相撲を見ていた時、「僕は寝たきりスパイラル」に陥っているのではないかと「寝たきり老人への道を歩んでいる」のではないかと気づかされました。寝ている方が楽なので、一日ベッドでゴロゴロしています。ますます足が弱ってきて少し歩いても息が切れる。朝起きてもやることのないので一日の生活にメリハリがない。「これは危ない、今なら戻れる」それではどうするか？「そうだ、朝起きてやることのある生活をしよう。病室を事務所にして仕事をしよう。できるだけ身体を起こしている時間を増やそう、病棟内を歩いてリハビリ」

寝たきりにならないためには本人の強い意志と共に、家族、医師、看護師の皆さんの支えが不可欠です。私は現在、「寝たきりスパイラル」から脱し、元の生活に戻るためのリハビリに励んでいます。

順利包装集団 福喜多俊夫

【7】マイクロコスモスⅡ

前号で、我が家庭菜園をマイクロコスモスと述べましたが、小宇宙には、悪魔も住んでいます。小さな虫です。9月になり、秋野菜の種をまきました。菜花、春菊、大根、にんじん、水菜などです。ところが9月初旬が暑かったせいか、菜花、水菜は虫に食われて全滅。大根も2種類の虫に葉を食われて半分が消えてしまいました。

芽が出てすぐに虫が食べると、その後の成長がうまくいかなくなります。
そこで悪魔退治を始めました。道具はピンセットとめがね。小さな大根の葉を裏返し、根元近くに潜んでいる虫を探します。蜘蛛の巣のようなモノのなかに、虫が潜んでいます。白い幼虫のような虫。葉柄に入り込み、大根葉を枯らせてしまいます。これをピンセットでつまみ上げ、足で踏みつぶします。毎日、数匹の虫退治の繰り返しです。

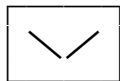
生命を大切にしたいという気持ちを一方で持ちながら、毎日数匹の虫の命を退治する。ミクロコスモスは悩ましい場所でもあります。

中嶋

◆◇MBO(目標管理)実践支援センターの考え方

MBO(目標管理)実践支援センターはMBO(目標管理)を組織内で展開するためのノウハウを蓄積し、人事担当者に提供するためのセンターです。営利事業と非営利事業を組み合わせることでこの機能を果たしていくつもりです。

<http://www.mbo-mcp.com/>



編集・発行／MBO(目標管理)実践支援センター
代表／中嶋哲夫 <http://www.mbo-mcp.com/>
事務局／(株)MC&P TEL:06-4706-3311

- 最後までお読みいただきましてありがとうございます。
このメールマガジンは、センターの講師陣が出会った方々に感謝の気持ちを込めて送らせていただいています。
もし、ご関心のない場合には、ご面倒ですが解除の手続きをお願い申し上げます。
- このメルマガを読んでもらいたいお知り合いを是非ご紹介ください。
- 投稿または配信停止を希望される場合は、
下記「お問い合わせフォーム」にて、
「MBO投稿」または「MBOメルマガ配信停止希望」とご記入の上、送信願います。
<https://secure.mcp.co.jp/contact.html>
- このメールアドレスは配信専用となっております。
返信いただいても対応はいたしかねますのでご了承ください。
ご連絡は下記のアドレスまでお願いいたします。
mbodoor@mbo.mcp.co.jp

※本メールの無断転載・複製を禁じます。